時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千百二十號
明治廿一年十一月廿六日月曜日
舊戊子十月廿三日(辛丑)
日出午前六時二十九分　日入午後四時二十八分
月出午後十時零五分　月入午後零時四分
滿潮午前九時四十六分　午後一時十三分
(西曆一千八百八十八年)

特別配達の廣告

時事新報は年中一日も休刊なき一種特別の新聞紙にして爲めに社會に裨益あるは今更いふまでもなき事なれども無休刊の利益は重に時事新報の購讀者に限り他に及ぶ事少きは甚だ遺憾の次第なれば一步を進め他の諸新聞紙の購讀者にても時事新報の購讀者と同樣其利益を受けしむるの工風ありたしと江湖の勸告毎々弊社に達するが故に今回弊社に於ては右勸告の旨に從ひ一種配達の新法を設け他の新聞紙の購讀者にして休刊日(即ち月曜日、大祭日の翌日、十二月三十三十一兩日、一月一日より三日迄)に限り時事新報を購讀せんとする諸君の需めに應じ夫々遞送配達を約束し代價は一箇月の前金僅かに八錢づゝにて來る十二月一日より實行致候此段廣告致候也

但郵送に係る分は新報一葉に付一錢の郵稅を申受くべし

時事新報

山縣伯の歐洲行

山縣內務大臣は豫て噂の如く去る十四日を以て御用有之歐洲諸國巡回仰付られ古市內務二等技師、中山內務大臣秘書官、荒川內務省參事官、小阪陸軍步兵少佐、中村陸軍砲兵少佐、賀古陸軍一等軍醫は其隨行を命ぜられたり聞く所に據れば巡回日數は凡そ八箇月の豫算にて出發は來月二日頃の便船に搭ずる都合なりと云ふ山縣伯が今回の巡回は何等の御用筋か我輩の知らざる所なりと雖ども其現職は內務大臣兼陸軍中將監軍部監軍にして在職の儘巡回仰付られたるのみならず內務の吏員、陸軍の佐官尉官が隨行を命ぜられたるより推察を下せば何れにも內務陸軍兩省に關する事なる可しと思はるれども世間に傳ふる所にては伯が巡回の重なる目的は歐洲諸國の國防を視察して我國々防の參考に供するに在りと云ふ者あり伯は臨時砲臺建築部長をも兼務するとなれば此世說も自から一說なるが如し其は兎も角も伯は維新の際に當り銃丸鎗劍の間に奔走して其武功も著しるく自後間斷なく軍務を執りて所謂專門の武人なれば陸軍に關する視察に就ては或は此人にあらざれば不都合なる廉もあらんかなれども陸軍部內には專門の武人に乏しからざるのみか近年軍事視察の爲め歐洲諸國を巡回したる其重なるものを擧れば大山陸軍大臣の一行、西鄉海軍大臣の一行、黑田伯の一行、樺山海軍次官の一行、乃木川上兩少將の一行等實に其數も寡からざることなれば大概の事は既に已に視察し了りたることなるらんと推量せざるを得ず然りのみならず今や內治の政務は多端にして各府縣ともに市制町村制の施行準備に忙しく郡制府縣制も不日に發布す可しとの沙汰もある尚は其上に二十三年國會開設の期は最早一箇年の短日月となりて憲法の發布も亦近きにある可しと云ふ旁以て內治の方面はます〳〵繁忙なる可き今の此時に當り其方面の總裁たる內務大臣が之を餘所にして外行とは世人をして大に驚かしむるとなきを得ず是れには何か政府部內に深き趣意もあり又餘儀なき事情もあることならん唯これを知らざる者が漫に驚くのみ

百聞は一見に若かず大臣貴官の歐米諸國を巡回して親しく彼の文物を目擊するは啻に其人一身の爲めのみならず國を利するとも亦大にして我輩の固より贊成する所なれども又一方より經濟の眼を以て商人風に錢の損益を勘定するときは官吏の外國行も日本を名くる一大家の營業に異ならず即ち其旅行の爲めに費す國庫の金は營業の元入金にして海外巡回の官吏が彼の地に於て大に知識見聞を增し其增したる知見を以て他年一日大に我日本の國益民利を致すことあれば前の元入金は之を償ふて餘りあるものと云ふ可し一國の大臣貴官にして頻々外國に旅行するは日本を除くの外に餘り事例の多きを見ず恰も我國の特色にして年來これが爲めに費したる金は莫大なる可し前節に記したる大山陸軍大臣以下その一行毎に既に相應の國庫金を費して又今回內務大臣の一行が凡そ八箇月の間に費すものも亦一際の金額なる可し我輩は政府の爲めに敢て守錢奴を學んで錢を愛しむ者にはあらざれども常に國庫金の大切なるを知り之を利用するに巧ならんことを祈る者なれば大臣の一行が何ほど金を費すも其多寡をば問はずして唯その歸來の後必ず其旅費に酬る丈けの國益民利を待つのみ即ち我輩は經濟の眼を以て商人風に財政を計算し一度び費したる金には間接にも直接にも必ず其償却を求るものなればなり

雜報

○青森縣弘前の近信　地方視察員　津輕大同會にては來る廿三年までの其間會員工藤行幹氏を派遣して各地方の狀況を觀察報道せしめんとを決議せしが同氏は直ちに九州地方に向ひ順次東京へ來るべき筈にて去る十七日發途したり○縣立尋常中學校移轉の議　青森に現在せる同中學校は昨年縣會の輿論にて弘前へ移轉せんとの旨を知事に建議せしが如何なる故にや知事は之を認可せざりしより例の辭職勸告の一條件となりし程の次第なるが抑も右の移轉說は洵に縣下人民一般の輿論なれば昨年の建議者なる縣會議長寺井純司氏等は數十名の贊成を得て更に再び建議すべき筈なりとぞ○弘前女學校　弘前の有志者相謀り今の高等小學校より稍や高尙なる女學校を私設せんとの計畫ありしがいよ〳〵多數の贊成を得て事漸く緖に就きたるを以て目下東奧義塾邸內に新築工事の最中なり扨いよ〳〵開校の上は西洋婦人をも傭入るゝ等なりといふ○米價騰貴　今年は農事の收結後れたると鐵道工夫等が入込みたると及び小坂其他の鑛山に輸送多き等の諸源因より米價漸々騰貴して現今は古米上白四斗入一俵二圓五十錢新米同二圓二十錢內外なり(十一月十九日發)

○青森縣　同縣は八郡より成立ち津輕五郡と南部三郡との間には一帶の山脈連亙して交通頗る不便なるに加へ南部と津輕は其昔よりも仇敵視せる間柄にして維新文明の春風も未だ溶解し盡さゝる所ありと見ゆる其證據は今も時々縣治上に現はれ且地勢も前狀の如くなるより人情風俗亦大に異る所ある次第なれば今度新制度を施行する曉是迄の行政區畫を其まゝに並一の條例を布くに至らば其利害の及ぶ所只に一町村の分合より生ずる比に非ずとて同縣有志家の間には竊かに憂慮し居るものありと云へり

○神奈川縣會　には去る二十二日午後同縣第二號議案の中なる監獄費の小項目未決囚諸費を審議するに當り議員水野保太郎、細野喜代四郎、井上篤太郎等の諸氏より未決囚徒の菜代は原案に囚徒一人分一日金一錢一厘宛と記載ありて已決囚と同一なるが元來未決囚なる者は未だ其犯罪も定らざるのみならず免訴放免を得て出獄するもの往々にして之れあり故に未決は已決に比し其取扱を寛にせんと最も至當なれば右菜代を原案より一厘宛增加して一日一錢二厘宛に修正すべしとのことを發論せしに多少反對論者も見受けしが結局右の增加論者過半數にて之れを可決したり又其後已決囚諸費の項目に移りし時古谷正橘、吉野泰造、中村克昌等の諸氏より前段未決囚の菜代を增加せし以上は已決囚の菜代も又增加すべし然らざれば權衡上不都合なるのみならず取扱にも困難多かるべしとのことを發論せしに未決囚の菜代を增加すべしと發論せし人は多く之れに反對し未決囚は性質上寛待すべきものなれば之れを增加したれども已決囚に至つては增加するの謂れなしと論じ中にも菊池小兵衛氏は本員縣會に列してより以來一回も原案に同意せしことなけれど已決囚の菜代に至つては原案即ち一錢一厘にて可なりとのことを述べ隨分花々敷討論ありしが此又決を採るに際し增加論多數を占め遂に未已決兩囚とも菜代一日分一厘宛を增加することに決したりと

○愛知縣下に於ける土木費　木曾川を首め諸川の治水堤防幷びに三河地方に於ける七道路修繕の件に付同縣にては去る十二日より臨時郡部會を開設したるとは既に本紙電報欄內に見えしが其後報に據るに右木曾川を首め諸川の治水一件は豫て久しく中央政府にて計畫のありしとにて其經費豫算の總額は金四百四十萬二千四百三十圓四十六錢三厘にして其內金三百四十二萬八千五百四十二圓は國庫より之を支辨し其他の內金五十二萬六千八百零四圓六十六錢六厘は岐阜縣、十九萬五千七百五十七圓卅二錢は三重縣にて負擔する筈にて扨愛知縣にては其負擔すべき豫算金の原案は單に治水費のみにても金四十四萬二千百六十六圓七十三錢二厘にして之に三河に於ける道路の改修費豫算額金三十九萬二千百九十七圓四十二錢七厘とを合すれば八十三萬四千三百六十四圓十五錢九厘にして之を來廿二年度より廿八年度に至る七箇年內に支出するの豫定なりしがさて去る十二日の郡部會開設以來豫て本紙にも記したる如く一旦は尾張議員と三河議員と意見合はざる所ありて到底滿足なる結果を得る能はざらんかとの恐れを抱きし程なりしが第七日目の會議に至り意外に好結果を得即ち出席員四十七人の中二十九名の多數にて兩件共總て常置委員の修正說に決したるが其金額は治水費は三十四萬七千八百七十四圓零一錢に道路費は二十二萬零九百四十一圓七十八錢二厘に修正し此の兩修正高合して金五十六萬八千八百十五圓八十錢(原案は金八十三萬四千三百六十四圓十五錢九厘)となりしが上に別に三河國に於ける道路改修費の修正金二萬六千四百三十六圓十八錢(原案は金七萬五千二百零四圓五十七錢三厘)とを總計すれば金五十九萬五千二百五十一圓九十八錢なり之を原案の如く七箇年度に割て支出するとに一決したり聞く處に依れば同郡部に於ける巳往の地方稅を假に標準として更に今回の土木費を附加すれば向ふ七箇年の平均は一箇年地租一圓に付き地方稅二十一錢強に當るといへり

○議員撰擧の勸告　前號の紙上に記したる如く明廿六日は横濱に於て前神奈川縣會議員河野與七氏の補欠撰

に今度の縣會には
題數多あれば補缺
あり然るに茲に未
議員今度其職を
みたる上殆んど
通し居れば今度の
らんことを請ひて
に投票あらんこ

○縣會　靜岡縣會
事堂の新築豫算
り同縣人中彼是
議に至らば隨分新
、當日は別に左
名の大多數にて非
なりしよし同地
五日より開會せ
百三十二圓三錢
圓を減少したる
り開會せしが議
件にして其額八千

○輕便鐵道式の
の博多停車場まで
已に本紙に記した
道會社と大に關係
敷設の儀を協議
鐵軌の如き數噸
正式の鐵道より
らんとの答へなん
道を敷設すると

○傍聽牌の改良
上に聞え渡りたる
常に詰掛け來り
廷せんずと押し
方なく時として
ある事なるが大
公判に當り大に
し傍聽人の來院
渡し置き且つ入
て番號順次に呼
雜沓の不都合な

○神戸近海に於け
に渡りての風雨
殊に烈しかりし
にて難船若しく
重なるものは神
大黑丸(百一石積
形、其他日本形に
郵船會社の横濱
しも暴風の爲め
乘客を上陸せし
り入港せしも是
り漸く一同上陸
る小蒸汽船は何
夫々解纜したる
一日午後六時大
するも暴風の爲
凡四五十間の所